

むつ小川原開発関連海域温排水等影響調査 (卵・稚魚調査要約)

早川 豊・小倉大二郎・中西 広義

調査方法

- 1) 調査年月日……………第1回：昭和54年7月31日、第2回：昭和54年10月14日
- 2) 調査地点……………上北郡六ヶ所村平沼～尾鮫沼沖合1km内の7線、14地点
- 3) 採集用具及び方法… ⑤稚魚ネット、表層を水平に3分間曳網、曳網速力約2ノット
- 4) 採集物の処理……………採集された材料は船上で10%中性ホルマリン溶液で固定後実験室へ持ち帰り、種の査定と計数および大きさを測定した。

調査結果

採集された卵・稚魚の種類、個体数などを下表に示した。

調査項目	第1回調査	第2回調査
環境条件	水深 4.5～11m 水温 18.4～18.8℃ 塩分 33.596～33.710%	水深 4.0～15.0m 水温 18.3～19.7℃ 塩分 16.727～33.650%
稚魚魚の出現状況	約10種・83個体 カタクチイワシ38個体・種不明仔魚26個体・ ネズッポ属稚魚12個体など	約4種・16個体 カタクチイワシ10個体・イソギンポ科稚魚4 個体など
魚卵の出現状況	約7種・810個 卵A(卵径700μ)726個 カタクチイワシ卵75個など	約4種・393個体 卵A(卵径700μ)387個体など
備考	第2回調査時の塩分量のばらつきは調査海域南側の高瀬川の影響と考えられた。 両回とも稚魚魚の出現は岸側に多く、魚卵の出現は沖側に多かった。	

⑤稚魚ネットで採集された卵・稚魚魚以外の動物プランクトンについて

- a) 第1回調査では約26,830個体、32種以上が採集され、橈脚類(36.8%)、夜光虫類(22.3%)、オタマボヤ類(17.4%)、エビミシス期幼生(6.2%)、枝角類(5.4%)、クラゲ類(5.4%)などの順であった。
- b) 第2回調査時では約47,756個体、35種以上が採集され、橈脚類(66.4%)、夜光虫類(19.2%)、クラゲ類(4.9%)、ヤムシ類(3.7%)、オタマボヤ類(2.7%)、枝角類(2.1%)などの順であった。



調査の詳細な報告書は、近く県漁政課で印刷される予定。